

山で出会った動物 No.1 は何かな？そもそも、こちらが逢いたいとラブコールした動物にはほとんど出会わないものだよね。タカ、シカ、カモシカ、ノウサギ、タヌキなど本当に会える機会が少ない。このあいだ会ったシカさんなどは後足の毛ずねを残して白骨化していたよ。やらせでない限り、動物番組のような出会いはほとんどないということだ。なぜかというと、ヒトの方が避けられているのだからだ。TV で観たオーストラリアウナギはヒトに親しげに寄ってきた、アホウドリも全然逃げないのでヘンな名を付けられ羽毛をむしられて食われてしまった。どちらも人なつこいのは良いがいまや絶滅寸前なのだよ。話題のイルカも本当はヒトを見ると逃げまくっている違いない。賢い動物だからなおさらのことだ。動物園や水族館の目的のひとつが「種の保存」となどというのは単なるヒトのエゴに過ぎず、存在意義も考えなおさねばいけない時季に来ているね。

だから動物 No.1 はヒトが会いたくもない動物、ということになるだろうね。こちらの方々には本当によく出くわすね。ヘビをはじめハチ、アブ、ブヨ、カ、ヒルなどなど・・・そんな中で比較的遭遇してもうれしい動物はトカゲなのじゃないだろうか。たぶんとカゲは、ほどよくヒトに接してきたのに違いない。少しでも暖かくなるとまず、小さな音を立てて草むらから転げ落ちてくるのは彼らなのだ。最初のうちは動きものろく、岩の上で体を温めているだけだが、しだいに大胆に出現してくるね。ヒトを恐がりもしないが少しは関心ありなのか、大胆に接触してくることもある。

このニホントカゲにも 3 種類あることが最近判明したそうだ。このあたりの個体はヒガシニホントカゲらしい。他にもニシニホントカゲ、伊豆にはオカダトカゲなどがいる。体色は成体と子供とはまるで別種のように違う。飼育していた幼体のコバルト～ブルーのグラデーションとビビットイエローの組みあわせはまるで虹の輝きを見るようだったね。成体は四肢をなくせばよく太った寸詰まりアオダイショウみたいだが、独特の貫禄がある。目の周りが赤いのがオスといわれるがどうなのだろう。年老いると体色は薄く白っぽくなっていくようだね。

トカゲはヘビと同じく再生、豊穡のシンボルだ。西洋ではヘビが悪徳の代名詞なのに対してトカゲは慎ましやかに太陽を求める永遠の智者ということだ。ヒトはこれから山道で遭遇する影に潜むこの小さな智者に対していっそうの敬意を払ったほうが良いと思うがどうだろうか。(M)

